

## 5 ビジョンの推進にあたって

### 5-1 ビジョンの推進体制について

文化の振興に向けては多様な主体が協力し、連携しながら取り組むことが重要です。ビジョンで掲げる将来像の実現に向けて、市民、市、文化振興財団などの役割を整理します。

#### (1) 市民、市民団体、企業等

- ・市民は、様々な文化を楽しみ、文化がもたらす様々な喜びや豊かさを享受するとともに、地域の文化を守り、育てる担い手として、様々な形で文化活動に参加し、文化を支えていくことが期待されます。
- ・市民団体は、それぞれの活動を通して、文化芸術の振興、生涯学習の推進、地域コミュニティの維持など、地域に対して貢献していくことが期待されています。
- ・市民団体それぞれが、その目的に応じて活動の質の向上や、人材の確保・育成に取り組み、持続可能な形で活動を継続することが求められています。
- ・企業等には本来の目的である経済活動やCSR<sup>16</sup>の形で地域社会に貢献するにとどまらず、文化の担い手として様々な形で地域文化にかかわるとともに、そうした取り組みから新たな価値を創出し、経済的な面での好循環を生み出すことが期待されています。
- ・さらには文化を通じて社会課題の解決と経済活動を両立させるソーシャルビジネスやCSV<sup>17</sup>経営を目指す起業が多く生まれることが望まれます。
- ・地域文化の担い手として市民、市民団体、企業が有機的に連携し、持続的な文化活動が行われ、地域の多様な豊かさを創出することが望まれます。

16 「Corporate Social Responsibility」の略で、「企業の社会的責任」と訳される。企業が社会や環境と共存し、持続可能な成長を図るため、その活動の影響について責任を取る企業行動であり、企業を取り巻く様々なステークホルダーからの信頼を得るための企業のあり方を指す。

17 「Creating Shared Value」の略で、「共有価値の創造」、「共通価値の創造」等と訳される。企業の事業を通じて社会的な課題を解決することから生まれる「社会価値」と「企業価値」を両立させようとする経営フレームワークで、2011年に企業の競争戦略を専門とする米国経営学者マイケル・ポーターによって提唱された考え方。

## (2) 市

- ・市民主体の文化振興を推進するため、様々な事業の実施を通じて、市民が文化に気軽に触れ、身近に感じることができるよう、環境整備を進めていきます。
- ・文化の持つ効用を最大限に生かすため、文化や生涯学習の分野だけでなく、福祉、産業、観光など、様々な分野と連携し、総合的な文化行政を推進するための体制構築に努めます。

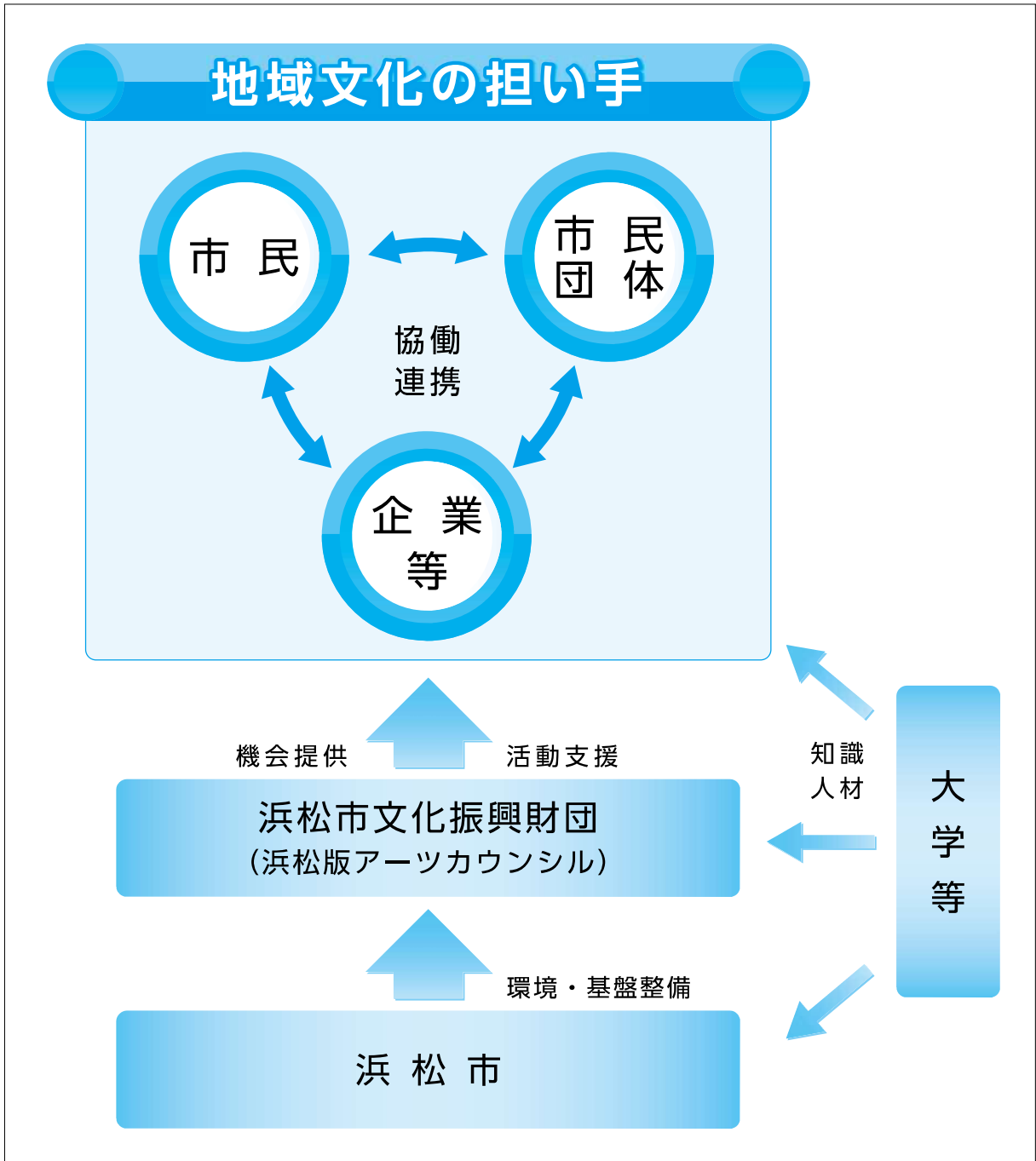
## (3) 浜松市文化振興財団、浜松版アーツカウンシル

- ・質の高い文化芸術の鑑賞機会の提供を行う事業主体として、文化芸術に関する専門性をさらに高めていくことが期待されています。
- ・音楽のみならず、他の文化芸術分野への対応を拡充するための機能強化を進めることが求められています。
- ・市民主体の文化活動をより活性化するとともに、多様な創造的活動主体の発掘・育成・交流を進めるため、浜松版アーツカウンシルの運営などを通じて、中間支援機能の充実を図ることが必要です。

## (4) 大学等

- ・本市には、日本初の文化政策学部を持つ静岡文化芸術大学をはじめ、文化振興に関する研究や人材育成を担う大学や各種学校が存在しています。
- ・地元で活躍する人材の育成のほか、本市におけるシンクタンク<sup>18</sup>としての機能を発揮し、文化振興に関連する様々な研究成果を地域に還元する取り組みが期待されます。

18 各分野の専門家を広く集めた高度な研究組織。企業や政府機関などの依頼により、現状分析や未来予測などを行い、経営戦略や施策決定に必要な知識や情報を提供する機関。



図：推進体制のイメージ